資料３－２

デジタルアーカイブ連携の共通目的・理念について

１．共通目的・理念に関する考え方

（中間報告の抜粋）

〇連携促進のためには、連携のメリットの共有に加え、連携によって実現される構想や連携が何を目指しているのか、といった連携の目的についても理解を得る必要がある。（p.4）

〇今回、我が国が目指すデジタルアーカイブの方向性はどういったものか。文化遺産のほか、学術情報、メディア芸術等も含めた、我が国が世界に誇る多種多様なコンテンツについてどこまでを対象とするのか。それらを世界にどのように発信していくのか。デジタルアーカイブが発信・共有したメタデータは、どのような流れに乗って、どこに行きつくのか。これらの論点も含め、どのような理念を掲げてデジタルアーカイブの連携を進めていくのかについて、次年度において、引き続き議論を行っていく必要がある。（p.4）

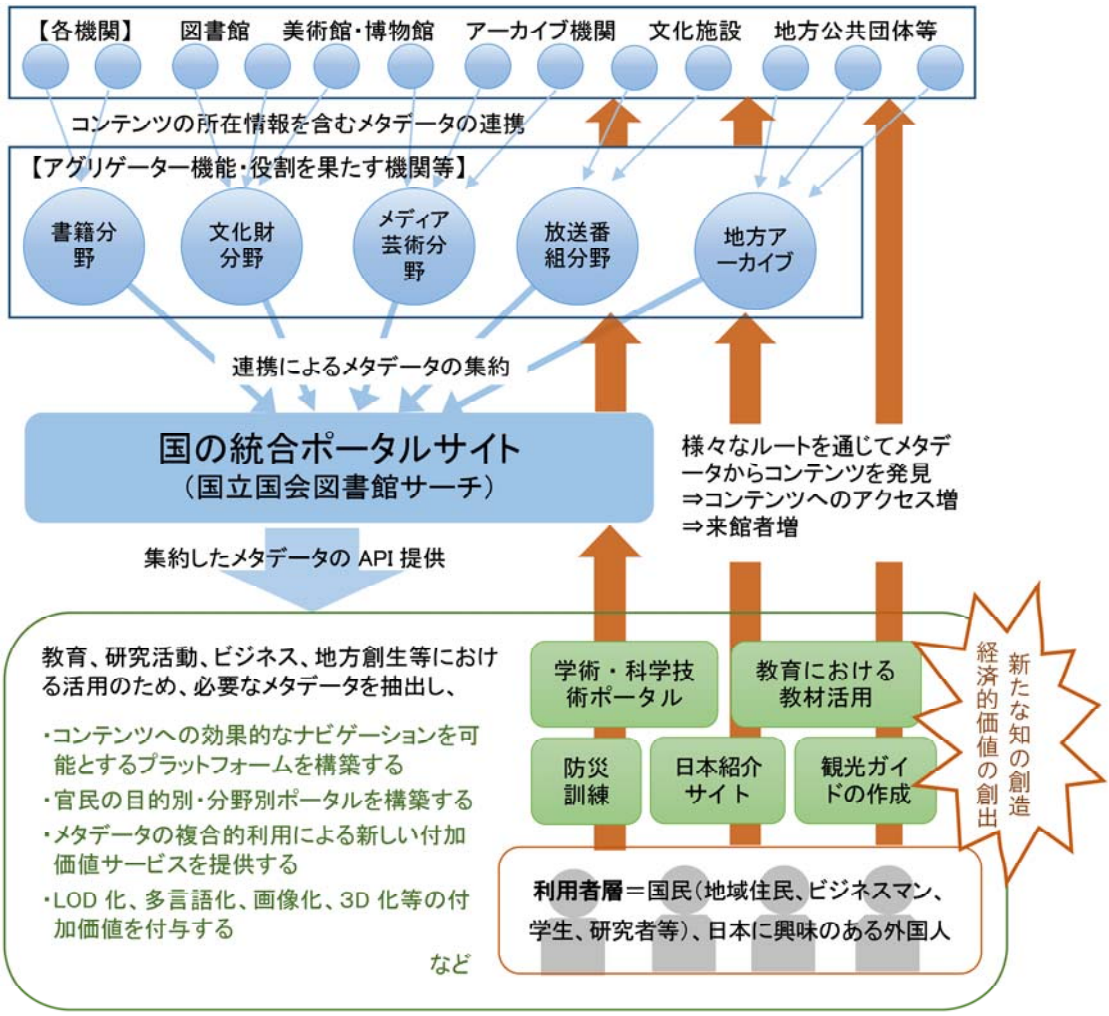
〇本協議会は、引き続き、次年度において以下について検討を行う。検討においては、情報を発信する側とそれを利用する側の両面からのアプローチに留意する。i. 我が国のデジタルアーカイブ連携の共通目的、ii. 集約されたメタデータの利活用事例の発掘（利用側が活用しやすい事例、固有の専門的価値を生かした事例など）、iii. メタデータの利活用の促進策。（p.6）

２．論点

〇我が国におけるデジタルアーカイブ連携の共通目的・理念として何を打ち出すか。

・我が国の文化・社会・経済的発展への貢献の観点
・海外への情報発信（日本の文化的プレゼンスの向上）
・その他の観点

（参考）メタデータの流れと望ましい利活用イメージ（中間報告 図１）



（参考）海外の事例

〇Europeana（欧州）

「我々のビジョン：ヨーロピアーナにおいて、我々は世界を文化によって変革するという任務を負っている。我々は、欧州の豊富な遺産を基盤とし、仕事や学習、さらには単なる遊びのためであっても、それを人々がもっと容易に利用できるようにしたい。

将来的には、我々全てに属し、共有する必要がある遺産に、全員がアクセスできるようになることを希望する。

ヨーロピアーナは、過去の偉大な成果物を探索し、将来の偉業を成し遂げることを可能にするプラットフォームを提供している。我々は、共有すべき遺産を持つ組織と、その遺産を使って、考え、共有し、構築することを望む人々・セクターを一つにする。

我々は、創造的な協働作業とチームワークを信じている。我々は、文化遺産に関する幅広いコミュニティや、クリエイティブな技術専門家と緊密に作業してはじめて、これら全てを成し遂げることができる。我々が一緒になれば、我々の各部分の合計よりもはるかに大きくなり、インパクトを与えることができる。

我々は、技術を進歩させ、新しい基準を採用し、著作権改革を支持しながら、共通の目標へ向かって、相互の便益のために作業を行うことができる。我々は、コレクションが 21 世紀にふさわしいものであり続けることを確実にするよう支援する。

我々は、これを文化革命と呼ぶ。我々はよりよい社会に向けて、それを使い、人々の生活を豊かにし、世界に大きな変化をもたらす。」[1]

「我々は文化が生活を変革すると信じている。我々は 1 つのネットワークであるとともに、2500 以上の文化遺産関連組織を代表している。また、これらの職業に従事する 1000 人の個々人でもあり、欧州の豊富な文化遺産を世界に届けることに熱心である。我々は、そうすることが計り知れない経済的・社会的利便性を解き放ち、その過程で生活を変革すると信じている。文化は欧州を統合し、文化へのアクセス向上は理解を促し、新しい経済を促進する。」[2]

「文化面で結合された欧州は、よりよい欧州である。ヨーロピアーナがもたらす最大の経済的貢献は、観光客数の増加と研究の質の向上にあるようだ。我々は、教育部門が、デジタル化された素材やそれによって解き放たれる想像力の可能性に沸き立っているのも知っている。これら全てのことを念頭に入れると、我々の投資決定を直接、計測可能な経済的成果に基づいて行うことは難しい。そのため、我々は、成果に関してバランスのとれた考え方を採用し、我々の使命と価値にしっかり根差したフレームワークを決定した。」[3]

○米国デジタル公共図書館（DPLA）

「DPLA は、米国の図書館、文書館、美術館・博物館の財産を同時に提供し、世界中の人々が自由に利用できるようにしている。DPLA は、文書の言葉から、芸術・文化作品、米国の遺産の記録、科学の成果やデータに及ぶ人間の幅広い表現を最大限に含めるよう努めている。DPLA は、オープンに利用可能な資料の範囲を拡大するとともに、3 つの主要な要素（ポータル、プラットフォーム、公共オプション）を通じて、その財産を簡単に発見されるよう、より幅広く利用可能になるよう、また、利用されるようにすることを目的としている。

アメリカ中の学生、教師、学者、一般公衆に途方もない資源を提供するポータル： ポータルは、米国の何百万もの品目からなるコレクションの中を検索し、詳しく調べる革新的な検索方法を、検索エンジンよりもはるかに多く提供する（年表、地図、仮想書架、フォーマット、テーマ、パートナーといった方法を含む）。

我々のデジタル化された文化遺産の斬新な使用方法を可能にするプラットフォーム： DPLA は、アプリケーションプログラミングインターフェース（API）と最大限にオープン化されたデータを通じて、ソフトウェア開発者などに使用されることによって、学習や発見ツール、魅力的なアプリのために、新しい環境を生み出す。

21 世紀における強力な「公共オプション」の擁護： 米国の歴史の大部分において、公共図書館における無料での資料へのアクセスは、我々の文化の中核的な部分をなし、熱烈な読書家や知力のある積極的な市民を生み出してきた。DPLA は、デジタル・オプションに関する制約が増えつつある中で、志を同じくする組織や個人とともに、この重要でオープンな知的状況を生き生きと幅広く残す仕事をしている。DPLA は、図書館が業界内で表明している公共オプションを強化するために、オープンにアクセス可能な資料を拡大しようとしている。」[4]

---

[1] Europeana ウェブサイト <http://pro.europeana.eu/about-us/who-we-are>

[2] Europeana Strategy 2015-2020, p.7. <http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20Strategy%202020.pdf>

[3] 同上, p.19.

[4] DPLA ウェブサイト <https://dp.la/info/>